



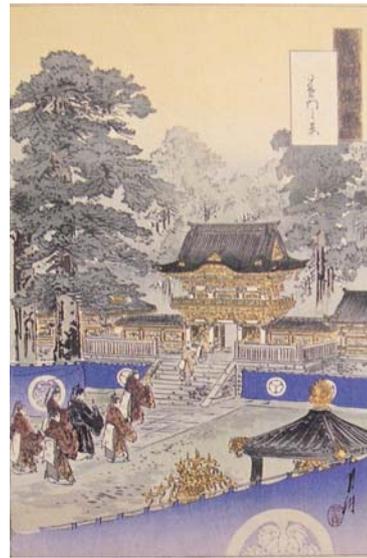
開館10周年・合併5周年記念 企画展  
青木コレクション展 —明治の版画・日本画—

青木藤作(1870～1946)が収集した美術品は、歌川広重を中心とした浮世絵が広く知られていますが、明治以降の版画も多く収集しました。明治時代になると、石版や西欧から輸入された写真機・印刷機などにより浮世絵の出版は衰退しはじめます。そうした状況を打開するため、版元は文人画や本画系の絵師を登用して新しい版画の制作を試みました。先月号で紹介した小林清親は光と影を効果的に用いた「光線画」を制作し、弟子の井上安治も同様の作品を制作しました。

尾形月耕(1859～1920)もまた、明治時代に活躍した絵師の一人です。独学で浮世絵を習得し、輸出用の陶磁器の下絵や新聞などの挿絵を手掛けた一方、繊細で温厚な画風を特徴とした版画も多く制作しました。今回紹介する「月耕随筆 日暮門之景」は日光東照宮の象徴的な建築として知られる陽明門を描いたものです。陽明門は寛永12年(1635)に建てられ、一日中見ても飽きないことから「日暮門」とも呼ばれます。

図は徳川家の紋の入った陣幕が張られるなか、神職たちが境内に入っていく様子が描かれ、祭礼が行われるところと考えられます。「月耕随筆」は歴史人物や説話を題材としたシリーズで、この作品のほかに3作品を展示しています。

今回の企画展では、青木コレクションのなかから明治時代に制作された版画や日本画を中心に展示しています。青木藤作が江戸時代の浮世絵と同様に情熱をもって収集した明治時代の作



尾形月耕「月耕随筆 日暮門之景」当館蔵

品をご覧ください。

馬頭広重美術館 学芸員 塩野目育枝

【会 期】

前期：2月27日(日)まで

後期：3月4日(金)～4月17日(日)

【ミュージアムトーク】

3月5日(土)午後1時30分～

【開館時間】

午前9時30分～午後5時まで

(但し入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】

月曜日、祝日の翌日、

2月28日～3月3日(展示替え)

【入 館 料】

大人 500円(450円)

高・大学生 300円(270円)

※( )は20名以上の団体料金

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

ミニギャラリー  
作品募集!

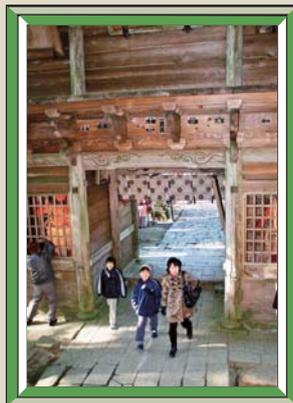
あなたの作品をここに展示してみませんか?

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

問い合わせ:企画財政課

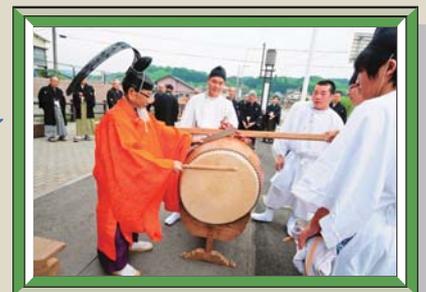
☎0287-92-1114

入選「下野新聞社賞  
「ファミリーで祈願」  
山中 富夫さん(宇都宮市)



ミニ  
ギャラリー

観光協会  
写真コンテスト  
受賞作品



入選「お手本太鼓」  
江川 清さん(宇都宮市)